

刊夕 日二月六



定価 一部金... 発行所 常磐寄日新聞社... 印刷所 常磐寄日新聞社

シナリオ

悩ましき沼 (3)

木津茂太郎

○街道... ○隊伍を整へて出征する藩士たち。

輕裝した小上惠之助。輕裝した松山仙之丞。輕裝した赤間庄九郎。その他。町の人々が見送りしてゐる。

○湯澤口。三箱山。そのひろい野原。今や官軍と幕軍(藩士軍)との合戦はたけなわである。もり上る白い砲煙。閃のく何千本の白刃。駆ける人々。その足並。

○惠之助の奮闘するのが見える。斬られて倒るゝ官軍兵。走りまわる惠之助。

○又、その友仙之丞の戦ひ振り。○惠之助と庄九郎とが右左から駆けて来て出會ふ。

字幕 小上だな しつかりやれ 手柄をしるよ 字幕

何を云ふ 馬鹿なつ.....

走り去るふたり。

○子供等が遊んでゐる。こゝろ遊びである。

一人の髪を亂した女がふらふら歩いて来る。狂女である。それは谷川村のお稻である。

子供等がはやす。お稻が追ひかける。又、わあとはやす。

お稻はさまようて行く。村。○わらを打つてゐる淋しい友次。

あの時のことが思ひ出されてならない。田圃路で會つて言葉を掛けられた時、山中で凶事が起つた時.....

ホロリと涙がこぼれる。字幕 字幕

お稻さん、ゆるして呉れよ。お前の氣が違つたのもみんなおいらの罪だ。たそがれ

町を見下ろす小高い所。○敗北した戦ひの終つた、惠之助がしょんぼり立つ

近詠

渡邊武門

新緑の中に聳ゆる天守閣 麥秋や畦を動かす土龍 田植笠辨當のせてありにけり

て、町を見てゐる。半面に刀きづがはつきりとある。ほつれ毛が風にかすかに動いてゐる。字幕

どうしたらう 父上は.....

母上は..... そしてお稻は.....

とつぶやく 字幕

仙之丞も庄九郎も死んだ 生き残つたのは俺だけだ。お稻の顔が現れてにつことする。

○とぼくと下つて行く小上惠之助。○鴉が何羽も無氣味に鳴きながら飛んでゆく。

○空にもつれる鴉..... ○森の梢。○惠之助が下つて行く。

○からす。○惠之助が下りて行く丘の全景

○次第にすべてが暗くなりやがて真黒く塗りつぶされてしまふ

一完

産名城磐 魚問屋 配達敏速 代理代平命生本日大最優最 榮盛賀志 番一三二電 目丁四平

造花 霊柩自動車御用達 町川新町平 屋本橋 番三六一話電

五月人形大形出賣 凱旋桃太郎、鐵甲金太郎 等々、新形人形取揃へました。五月杵飾りセット 八圓より二百圓迄各種

吉田眼科病院 平野屋町、電話六八番

東京十軒店久月 武者人形御座敷陳列 お子様方が一年中で一番楽しみな端午の御節句が近づきました。江戸の檜舞臺日本橋の十軒店で永年御愛顧を受けて居ります。

端午の節句の御祝品に！ 戦勝人形や武者人形 甲冑陣笠太刀太鼓 當店獨特のセツト御覽下さい..... 澤山取揃へてあります。

花柳科専門 木村外科醫院 入院自炊の便あり 平町五丁目橋際 電話三〇九番

赤い目 一滴できく 神教水 (新容器入) 堀薬局 平町二丁目(電話三六)

平商業後任校長は

鈴木福商教頭か

▼ 警中第一回の出身

既報平商業學校校長吉田利吉氏の札幌商業學校校長榮轉の辭令は今週中に

文部省より發せられる筈になつて居る爲め目下

後任校長物色中の模様であるが多分福島商業學校教頭鈴木清八氏の就任を見るのではないかと傳へられて居る同氏は双葉郡大久保村の出身で警中第一回の卒業生

外國語學校

英語科を修め多年各地の商業學校に教鞭を執り商業教育には極めて造詣の深い好箇の教育家であると

本年も軍カシ

便乗許可

希望者は五日迄
平役場が受付ける

既報來月廿一日小名濱入港の軍艦本會は海事思想普及の爲め本年も一般の見學を許す外各官公吏、在郷軍人教職員、學生、青訓等の希望者を宮城縣女川港迄の便乗を許可するので平町の希望者は本月五日迄町役場兵事係へ申込され度いと傳

紫雲英増加

成績頗る良好

石城郡下の二毛作紫雲英は今年是非常な増加で昨年の七割増となり過般郡農會審査の結果成績頗るよく坪刈り最低收量四貫四五百目最高六貫三百目で目下刈り取敷込み中であるが生草百貫毎に對し石灰五貫位の割合に撒布し出來得る限り灌水し田植期までに充分腐熟せしむる様各農家に注意を促してゐる

桑園立木の儘

一反歩五六圓

此のバカ安値に
狂つた懐中勘定

石城郡下養蠶家は一般に繭價安を見越し掃立を控へ主にも桑葉の販賣で算盤をとりんとする向が多かつたが本年の天候は其後順調で桑の發育が良い爲め桑葉の豊作となり取引額は俄然下落を呈し一貫目十錢位と見越される状態に桑園一段歩を立木の儘費拂つても五六圓に達せぬ悲惨な有様であるが一段歩の桑園には大体七八圓の肥料を要すると

ピラ配布や

登校時間の測定

時の記念日と宣傳

平町各中等學校及び小學校に於ては來る十日の時の記念日に際し各校長が夫々時の觀念涵養を期する講演をなすが第一小學校にては講演

田植のトツプ

本日磐崎村で

全部落民が共同勞作

代理店新設

當地方に古き關係の深い而も業績のよい安心の出來る健實なる有隣生命保險株式會社の代理店を引受けました。何卒御利用の程を御願ひ致します。

有隣生命保險株式會社

平城北代理店主幹 佐々木龍若
附屬社員 志賀寛

藤沼醫院

平町紺屋町
電話七〇五番

共同消毒

養豚小屋を

既報石城郡錦村では豚コレラの發生を見たので去る卅一日同村役場と協力し村内三十餘名の養豚小屋の共同消毒を行つた

平職界紹介所報告

求人部の部

- △草薙 四十五才迄 三尺
- △タバ三錢(平町某牛乳舎)
- △農夫 四十才迄 尋卒
- △月十圓位(夏井村某)
- △座敷女中 二十才前後
- △給料面談(平町某料理店)
- △小商店員 十八才 高卒
- △月五圓外仕着(四倉町某)

回求職の部

- △店員 二十才 高卒 給料面談(平窪村某)
- △自動車助手 二十一才 尋卒給料面談(湯本町某)
- △女中 十六才 尋卒 給料面談(川前村某)
- △小商店員 十七才 高卒 給料面談(湯本町某)

銀駒込館

電話(小石川)三一六五番
一泊金一圓八十錢(食附但シ二食)

申し上げます

此度聚樂館南隣りの「世界」と云ふカフェーを私の姉が經營する事になりました姉は人の好い割に不運な身の上でした弟として私は何とか幸福な老後を送らせ度いと存じます。充分勉強するさうですから何卒皆様御ひいきを願ひます。

藤 一

火防組員にも

非常時訓練

頻々たる火災に 平消防組の対策

頻々たる火災に悩まされる平町は一層消防事業の完璧を期する為各區の火防組員に對しても消防組員同様に非常時の訓練を爲し火災の際には消防火防共に協力し消火に奮闘せしめんと昨日平署に柏原組頭代理以下の各幹部が伊藤署長と共に種々打合せする處があつた

長い罪名

詐欺の公判

既報石城郡草野村大字下神谷字中川原居住新妻國造(○)が妻キンの實印を偽造し連帯借書を作り新妻所有の土地を抵當となし平南町山下三次より金千五百十圓を詐取した私文書偽造行使詐欺並公正證書不實記載行使詐欺事件は本日午前十時より平區裁判所に於て中島判事係り市川檢事立會の下に公判開廷事實審理の結果其儘拘留された因に次回公判期日は来る八日午前九時である

職業紹介

求人減

所の五月中に取扱つた紹介成績を見ると同月の求人は男四十九、女十四、計六十三

に比較する求人二十六名求職三十一名の減数を示して居るが原因は平町上水道擴張工事の一段落と期節的求人が減少した結果である

剣道選手出場

中學校及び平商業學校の剣道部にては来る八日舊五月節句を卜し入山炭礦剣道部主催にて入山小學校に於て開催される剣道大會に出場すると

獵天狗の鼻と

獲物の數々

鳥が一萬一千羽 獸は一千六百匹

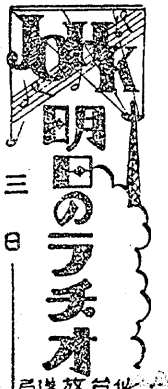
平署管内に於ける免許狀を有する百三十餘名の狩獵家が狩獵期間中管内各地の山野を駆けめぐり其銃先の犠牲となり而も獵天狗の鼻を高くらしめた鳥獸數の獲物の統計を見ると鳥類が一万一千五百二十八羽、獸類が千六百五十七匹となるが主なる捕獲鳥獸は左の如くである

盗んだ古着を

ドシく投賣

出稼先で悪事を働き郷里で一儲け……

石城郡好間村新町生れ當時茨城縣水戸市上布紅葉町佐藤松太郎方日雇業鈴木サダ事渡邊サヨ(○)は去月廿八日午後四時頃水戸市内の古着商石井勉方に古着を求めに行つた際家人の不在を寄貨とし店先より衣數六十餘



明日のラジオ

今夜も明日も北西の風晴

今晚の部

後六、〇〇 子供の時間
「童話」巖谷小波
後六、二〇 コドモの新聞
村岡花子
後六、二五 カレント・ト
ピツノス ハロルド、ハ
マー
後七、三〇 講演「日本茶

貿易の過去及將來」商工大臣男爵 中島久万吉
「横濱開港記念の夕」
後八、〇〇 混聲合唱 横濱混聲合唱團
後八、一五 清元「風薫賑
濱節」清元高千代外
後八、四〇 放送舞臺劇
「亞米利加の使」村田武部

明日の部

後九、三〇 時報 國ニ
ユース 氣象通報 番組
後九、一〇 料理献立「挽
肉の玉子包揚」手代木然
彦
前一〇、三〇 家庭講座
「冬咲く花を今から蒔き
ます」堀切參郎
後一〇、〇五 管絃樂 コロ
ナオーケストラ 指揮佐
藤清吉
後二、〇〇 家庭講座「禪
學とお茶」駒澤大學教授

點を窃取し去る卅一日石城郡に飛んで歸り湯本内郷方面で投賣にし二日午後二時再び水戸に立歸つた事を平署にて探知し水戸署に照會同日午後五時頃水戸驛にて取押へられた

失火、家宅侵入

脅迫、賭博など

略式オンパレード

△石城郡鹿島村大字松久須根字戸ノ作七番地農園井久吉(○)が本年五月一日同所四十四番地山林に於て晝食の爲め枯葉等を集めて焚火したる所折柄の烈風に煽られ火を持て餘し同人外一名所有の山林約五反歩を焼失し公共の危険を生ぜしめ失火罪として罰金三十圓
△同郡山田村大字富津字畔内三十八番地合資會社大平組ノ従業員星西次(○)が無免許にて本年三月七日植田町字町後街道にて貨物自動車運轉し自動車取締令違反として罰金二十圓

玉川女子協議 石城郡玉川村女子青年團では来る七日午後一時より同村小學校に役員會を開き來月小名濱港に入港する軍艦木會見學に就いて協議を行ふ筈

△双葉郡請戸村大字中濱字西原農米倉安意(○)は本年五月五日午前一時頃姦淫の目的を以て同郡浪江町大字權現堂字御殿南十八番地若林製糸工場女工寄宿舎へ侵入し住居侵入罪として罰金三十圓
△石城郡山田村大字井上字沼田二十五番地炭礦事務員小島義(○)は昨年十二月十六日同村吉村炭礦工業所住宅久保七郎方に於て同人及服部幹雄より輕侮せられたるを怒り同日午後十時半頃同所自宅より日本刀を携行し抜刀の上右七郎方士間に

侵入し「久保と服部をブツタ斬る覺悟をしろ」と告げ之を上り口に突立て兩名を畏怖せしめ住居侵入脅迫罪として罰金百圓
△双葉郡津島村大字晝會根字尺石六番地荷馬車挽機具正壽(○)同郡野村大字加倉字馬場内九十七番地魚行商福井松之助(○)同農渡部勇(○)同村平農 田中春吉(○)同村尺石農瀧川泰(○)同日雇渡部五郎(○)同村日雇業星博(○)相馬郡一浦村大字浦尻字北川原魚行商小泉忠(○)同郡小高町大字片草字金場臺五十一番地日雇業佐藤吉藏(○)の九名は本年一月二十八日より二回に亘り双葉郡津島村國有林其他二ヶ所に於て花札を使用し賭博罪をなし賭博罪として春吉に罰金三十圓、正壽、松之助、勇、忠、泰五郎、博、吉藏は各罰金二十圓に本町各々平區裁判所に於て略式命令を以て處分された

醫學博士諸岡存 後六、〇〇 お話「超短波長電波とはどんなものでせう」工學博士宇田新太郎
後六、二〇 コドモの新聞
後六、二五 カレントトピ
ック
後七、三〇 講演「統計の
話」内閣統計局統計官森
數樹
後八、〇〇 漫談「モダ
ン」井口靜波
後八、三〇 新講談「法官
と女教師」若柳燕嬢
後九、〇〇 民謡「八戸小
唄外」鹿の子外

侵入し「久保と服部をブツタ斬る覺悟をしろ」と告げ之を上り口に突立て兩名を畏怖せしめ住居侵入脅迫罪として罰金百圓
△双葉郡津島村大字晝會根字尺石六番地荷馬車挽機具正壽(○)同郡野村大字加倉字馬場内九十七番地魚行商福井松之助(○)同農渡部勇(○)同村平農 田中春吉(○)同村尺石農瀧川泰(○)同日雇渡部五郎(○)同村日雇業星博(○)相馬郡一浦村大字浦尻字北川原魚行商小泉忠(○)同郡小高町大字片草字金場臺五十一番地日雇業佐藤吉藏(○)の九名は本年一月二十八日より二回に亘り双葉郡津島村國有林其他二ヶ所に於て花札を使用し賭博罪をなし賭博罪として春吉に罰金三十圓、正壽、松之助、勇、忠、泰五郎、博、吉藏は各罰金二十圓に本町各々平區裁判所に於て略式命令を以て處分された

平第三校で 齒の磨き方

には本日より向ふ四日間のムシ齒豫防デーに際し全校生徒に毎日晝食後各教室に於て組主任指導の下に齒の磨き方を練習させると

嫁入娘の安否

音沙汰がない

石城郡赤井村大字赤井字南萩居住杉本寛六(○)は昨年二月湯本町上町の某周旋業者の紹介で三女ヨシ子(○)を愛知縣日吹町の笠原タドシ製造所に奉公せしめて居た處同年八月頃娘が奉公先に於いて割愛の仲となつた長野市生れ保険外交員北澤勝美からヨシ子を妻とし度いかは是非嫁にくれとの事に毎月卅圓の仕送をする條件で夫婦にした處音信も仕送りも無い爲め最近九州福岡より送られた娘の端書をたよりに本日平署に父親から搜索願出た

幕末剣士

【禁轉載上演及映畫】

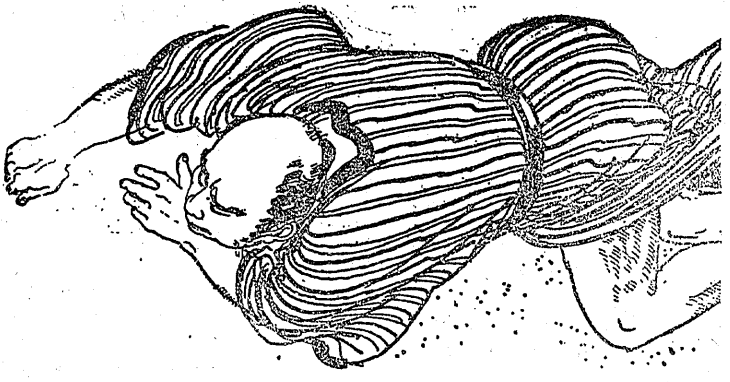
悟道軒 圓玉演
近藤 紫雲畫

第六十五席 眞庭念流達人櫻井五助

馬五郎を懲す

昔は無頼漢と云ふ甚だ性質の良しかざる浮浪者があつて盛り場の茶店などを強請つたもの、淺草の奥山から吉原を廻つてある無頼漢の五郎、これは大層力があつて吉原土手で千住の百姓と喧嘩をして曳いてゐた馬を取つて投げた、それ以來馬五郎と云ふ綽名を取り度々喧嘩をして多勢に取巻られて打たれ、叩かれたが痛い云つた事がない、不死身ですそだが兄弟分と二人で梅本と云ふ三社前の茶店へ来て酒代をねだつてゐる

恚う云ふところにある女は無頼漢には慣れてゐるから相手にせず済ましてゐます馬「オイ姐や、何んとか云へ」
女「今日はいけないよ、一文も出ないよ」
馬「いやな事を云ふな、今日いけねえ、一文も出ねえとはそれは誰に云つたことだ、錢貰ひぢやアねえや、ヤイ一分貸せ、出さなければ今も云つた通りこの店を踏み潰さず、なア勘次さうたらう」
と伴に對つて云ふと勘「怒るな、主のやうに」



氣を短くつては錢にはならぬえが貸してくれぬえ、晩に持つて来て返すから」
女「夜になれば店をしまつて歸るよ」
勘「だからお前の家へ届けよ、オイ一分貸してくん

馬「口をきくなら錢を出せお前に貸してくれとは云はねえよ、俺は田中の馬五郎だ、俺の名を聞いた事もあつたらう甘く見るナ」
長「別に甘く扱ふわけでもねえ、年の暮の霜枯に弱い商賣をしてゐるものをいぢめると節分の鬼に笑はれるぜ、さアこれを遣るから笑つて歸るが宜い」
出したは二朱、馬五郎はそいつを手に取つてメロメロと長太郎を見てゐたが馬「オイ若いの、お前は何處の子分だ、堅氣ぢやなからう」

朱貫つたら文句はなからう……」
馬「文句は云はねえよ、お前には何んにも云はねえ、然し女からは一分借りる事にする」
長「こんな判らねえ奴は無えナ」
馬「何が判らねえ、判つてゐるじやアねえか、お前から貰つた二朱は禮を云つて頂く、しかし女から一分借りるはお前とは別だ、オイ姐さん貸してくれ」
と傍へすり寄る、長太郎は赫として
長「飛んでもねえ野郎だ、さア出て行け、この上にごたくを吐くと頭のかげらを拾はせるぞ」
馬「アハ……こいつは面白、頭のかげらを拾つてみてえ、さア打つてくれ」
とこんどは長太郎にすり寄つた、最前からこれを見つてゐた櫻井五助バツとそれへ飛下り
五「この不埒者め」
と馬五郎の腕を取つてズル／＼と引出す
馬「ヤイ何をしやアがる」と振り放さうとしたが五助は大力、それに起倒流の柔道に達してゐる、押へた腕をグツと捻ぢ上げ
五「動けるか」
馬「ヤイ放せ、オウ勘太助けてくれ」
云はれて伴の無頼漢が拳をかためてサツと打つて来た
五「コレ何をやる」
と其奴の腕をビタリと押へ、グーッとこれも捻ぢ上

げたが二人とも顔色が變つた、五助はこれをズル／＼と表へ引出し
五「以後斯様な事をいたすとあて殺すぞ、この白痴者め」
ボンと投げると五六間飛んで行つてバツタリ仆れた、イヤ馬五郎驚いて勘太と共に仁王門の方をさして逃げる、これを見てゐたこの女が
女「まア旦那のお強いこと今迄お武家様もあの馬五郎には御迷惑をなさいましたそれにあなたは猫子を投げやるやうにして何と云ふ強いお方でございますか」
云ふと長太郎が
長「先生が手を出さなくてもねえ、俺が投げ飛ばして遣らうと思つたが、先生に先手を取られた、さア野郎出て来い」
女「モウ居ませんよ」
長「さうだらうと思つて云つたことだ」
五助はこれを聞いて笑つてゐる。

ねえ、いけねえいけいけなけりやア暴れるぜ」
云ふと櫻井五助と共に酒を飲んでゐた長太郎がそれへ出て来たが
長「オイ若い衆、今日はおとなしく歸るが宜い」
馬「オウお前は何んだ」
長「この客だ」

長「京橋五郎兵衛町の武藏屋の若いものだが、今日は客人の供をして觀音様を參詣遊びに来た」
馬「ウーム武藏屋の子分かイヤ大きに有難うございませ、一朱は確に貰つた、オイ姐や一分貸してくんな」
長「オイ何を云ふんだ、二

お醤油は……ヤマフル

お醤油は……ヤマフル

醤油味 贈
たひら 正宗
鯉節 食料品

鹽屋

山崎合名會社

福島縣平町(電話營業部二醸造工場三)
明治生命警城代理店 山崎與三郎

高久病院

院長 醫學士 高久 忠
副院長 新潟醫學士 赤羽 清
藥局長 藥劑師 佐竹 菊雄

内科小兒科 平町田町 電話五一三番
耳鼻咽喉科 外科花柳病科
レントゲン科

市原醫院

平町 田町 電話一四番

上田科醫院

平町 南町 電話二一九番

正確の時計

お客様本位の……

常盤屋時計店

好適の眼鏡